

今まで「他人視点」
意見を聞かない、物事を周囲が決める

「本人視点で」

本人は声を出せる
本人が決められるよう
手助けする
本人の意思を大事にする

「それ欲しかったんだ」



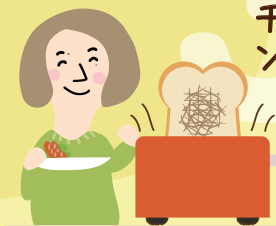
「どうですか」

今まで「問題重視」
できないと決めつける、危ないからやらせない

「可能性を重視する」

わかること、できることが
たくさんある
自由と安全の
バランスを大切に

千
ン

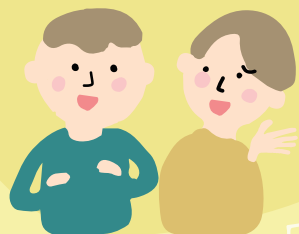


今まで「他人ごと」
なりたくない、先送り

「自分ごとに」

認知症と向き合い、備える
自分や家族の誰もがなりうる

「そうだな」



「認知症になったら」

「できない」から「できる」を見つける！

新しい認知症観

今まで「疎外」
隠したい、地域で暮らせない

「共に生きる」

地域の一員として暮らし
活躍する

「オッケー」



「お願いしますね」

今まで「あきらめる」
なにもできなくなる
支援される一方

「希望がある」

その人であることは
何も変わらない
自分らしく自然体で
オープンに
楽しく暮らす



「他人ごと」から
「自分ごと」として
考える時代なんだね。

誰もが認知症になりうると思える時代です。
急速な高齢化に伴い、認知症のある人が増加すると見込まれている一方で、
認知症のある人が社会的に孤立する状況が未だにみられます。
2022年時点の認知症・軽度認知障害のある人は計1,000万人を超え、
高齢者の約3.6人に1人が認知症又はその予備軍となっています。
新しい認知症観を理解し、尊重することが大切です。

共生社会とは

年齢にかかわらず、認知症のある人も含めて、すべての人が認知症を自分ごととして理解し、自分自身や家族が認知症であることを周囲に伝え、自分らしい暮らしを続けていくためにはどうすべきか、考える時代が来ています。
認知症のあるご本人が尊厳を保持しつつ希望を持って暮らすことができるような社会を目指します。

相模原市
10分で分かる！
「新しい認知症観」
動画



共生社会の実現を推進するための 認知症基本法(令和6年1月施行)

新しい
認知症観
「できない」から「できる」を見つける！

「目的」

認知症のある人が尊重され、自分らしさを大切に、前向きに生活できるように、さまざまな支援や対策をバランスよく、進めていきます。

⇒認知症のある人もそうでない人も、一人ひとりが自分らしく輝き、互いを認め合い支え合いながら暮らせる、あたたかい共生社会を目指します。

「基本理念」

認知症施策は、認知症のある人が尊厳を保持しつつ希望を持って暮らすことができるように、1～7を基本理念として行っていきます。

基本理念

1

認知症のある人も、一人ひとりが自分らしく、自分の考えで暮らしや社会の中で生きていけるようにします。

基本理念

5

認知症のある人だけでなく、その家族も支え、地域で安心して毎日過ごせるようにします。

基本理念

2

国民一人ひとりが、認知症についての正しい知識と理解を深め、共生社会の実現に向けて主体的に関わることができます。

基本理念

6

みんなが安心して暮らせる社会をつくるために研究を進め、その成果を広く活かします。

また、予防や診断、治療、リハビリや介護の方法、社会参加のあり方などについて、科学的な知見に基づいた取り組みを広げていきます。

基本理念

3

認知症のある人が、ふだんの生活や社会の中で困ることをなくし、地域で安心して安全に、自分らしく暮らせるようにします。

また、自分のことについて意見を言う機会や、さまざまな活動に参加する機会を大切に、その人の個性や力が十分に発揮できる社会を目指します。

基本理念

7

教育・地域づくり・仕事・医療・福祉など、さまざまな分野が協力して、総合的に取り組みます。

基本理念

4

認知症のある人の気持ちや希望を大切にしながら、医療や福祉のサービスが途切れずに受けられるようにします。

みんなが支え合って暮らせる社会(共生社会)の実現に向けて、基本となる考え方にに基づき、国と地域が協力して認知症に関する取り組みを進めていきます。

